



ゾンコレ~Goldenzombie collection~

俺の嫁は身長147cmの純朴田舎〇学生

東北の
とある田舎町
おめこむら
男女湖村

それが
俺の生まれ
育った場所だ



そして俺の名前は
さいば ばんたろう
斎場 番太郎

40歳



良く言われる
似ている芸能人といえ
ドラ○クドラゴ○の
塚○といわれる
地元の学校の教員である

こんな容姿だから
当然彼女イナイ歴は
40年
生徒にも同僚にも
全く人気はなかった

しかしこの春
そんな冴えない
素人童貞の中年が
結婚する事になった
その相手とは――

かいとう
海藤

アイナ
愛奈

○学2年生の女の子で
俺の勤務先の生徒である



身長は147cmと
小柄な身体で
趣味は読書と編み物
控え目でおとなしい性格の娘だ

何故俺の様な
中年ブサメンがこの様な
女子○学生をゲット
できたかというと



この村で育った
10代の女子は
40歳以上の未婚の男性に
嫁がなければならぬ
この村に伝わる古い
風習のおかげなのであった

そして
結婚から3カ月

俺達夫婦は
ウチの父親所有の
このアパートで

一緒に
暮らしていた

あ…あの…
朝ごはん
できました

だ…ダンナ様の
お口に合えば
いいんですけど…





貞操がもの凄く
固い事——
結婚する条件の
1つとして
成人するまで
Hな事はしないで
欲しいとの事だった



結婚して3カ月
経った今でも
俺達夫婦は
キスはおろか満足に
手すら繋いでいなかった

そんなおぼこを
無理やり犯す勇氣も
無かった俺は



ただひたすら
ドス黒い欲望を
溜め込む日々なので
あった

そして
そんなある日——





週に3回ほどある
アイナのいるクラスでの
授業の時間での事

テキスト P.84



点OがABの中点
BQ = 2h

$\triangle APQ$ の面積
を式で表す。
 $\frac{1}{2} \times x \times (10 - 2x)$



俺達夫婦は
学校では単なる
教師と生徒の立場でいた

彼女はクラスメイトに
夫婦の関係を冷やかされる
のが恥ずかしいので
誰にも秘密にして欲しい
との事だった



俺はその事に関しては
不満はなかったが

1つだけ気がかりな
事があった

この生徒の存在

なく
海藤

ちよつと
この問題
教えて

え？

だいば まもる
台場 守

野球部所属の
俺の嫌いな
爽やかスポーツ少年だ

そいつがどうやら
アイナに惚れてるらしく
ここ最近ちよつかいを
出しているのだ

フフ…

スゲー
分かりやすかったわ
サンキューな

どーいたしまして

そして何より心配なのは
アイナのまんざらでも
ない態度

そんな2人を見る度に
俺は嫉妬と焦燥感で
胸が一杯になり

おいおい
お前等
デキてんのかよw

見せつけて
くれるねえ♡

とても正常な気持ちで
授業をこなす事が
困難になった

チュ-♡ チュ-♡

お前等もう
結婚しろよw
w
w

そして俺はその時
決意した

毎秒キ
ハハハ

今夜
アイナの全てを
奪う事を

そして
その日の深夜――

アイナは家事と勉強で
疲れ果て

可愛い寝顔で
深い眠りについていた

俺が夜這いしに
彼女の部屋に入った事も
気付かないほどに――

ニタァ...

電マを彼女の秘部に当ててる



ひぐ………？

せく………

ガイ
タイ
タイ
ニ

オナニーもした事がなかった彼女にとってこの責めは

あ……ひぐつ……

せく………

刺激が強く必死に逃れようとするが

せく………

やっ……
やめっ……

身長147cmの彼女にとって大の大人を振りほどくのは容易ではなかった



そして俺は
電マ責めプラス

ガ
イ
イ
ニ
クリ
クリ

隣町の風俗で
鍛えたフィンガーデク
も投入した

この両方の刺激に
処女だった
アイナもたまらず

ゼン



何っ……!?!?
来るっ……!?!?
何か来ちゃうっ
……!?!?

絶頂した

ゼク
ゼク
ゼク

パンパン

ゼク

ガ
イ
イ
ニ



初めての絶頂で
腰が抜けたのか
アイナは大きく
痙攣した後
前のめりに倒れた



俺は間髪入れず
彼女の下着と
寝巻をはぎ取り

極太の肉棒を
彼女の小さな
女性器にあてがうと



一気にそのまま
貫通した



そして俺は
アイナが
逃げれない
様に上から
覆いかぶさり
激しく腰を
振った

いやあ
あああ

彼女のアソコは
未だ小さかったが

パン

先刻イカせて
ほぐしたせい
かピストンは
非常にスムーズ
であった

だ：ダンナ様っ
お願いっ
やめてえっ

アイナは
泣きながら
止めるように
哀願したが

パン

パン

俺はこんなに
身体の小さい
○学生を犯している
現状に興奮しまくり

一層激しく
ピストン
しまくった

あああ
あああ

やがて

く

く

膣内に思い切り
射精した♡

クニ

クニ...

クニ...

クニ
ユルル

こうしてアイナは
本当の意味で
俺の女房になった



彼女の小さな
女性器から
精液が
ゴポリと
溢れだす



それを見ると
俺は自分の
征服が満たされる
のを感じるのだった

その後の
夫婦の関係修復は
大変だった

とにかく
謝り倒し
彼女の要望は
全て聞き入れ

1か月以上
粘りに粘った末
何とか許して
もらったのだ

それから
3ヶ月後

俺達夫婦は風呂場で
デーブキスをしていた

あの日から拝み倒して
絶対に乱暴にしない
という条件で
俺はSEXする事を
アイナに許されたのだ

そしてそれから
ほぼ毎日
彼女の身体を
丁寧に関発し続けた
結果

キス1つで
このトロ顔である

トロオ...♡

その後挿入前に
軽くフェエラをさせる

ブルポッ

ズポッ

ブピッ

まだ彼女には技術が
ないので俺自ら
腰を振る

アイナは口でするのは
苦手らしく毎回
苦しそうな表情で涙目になっていた

ジュブ

ブピ

ズポ

その表情を見ると
無理やり口の中を犯している
感覚を覚えもの凄く興奮するのだ

そして
肉棒が十分に
固くなった所で

ギニ

ギニ



アイナの
おマ○コは
キスとフェラで
興奮して
びしょびしょに
濡れていた

なので
一回り以上
大きい
俺の極太の
肉棒を
すんなりと
受け入れる
事ができた

アイナの小さな身体を潰さない様
気をつけながら
上から覆いかぶさって
腰を振る



彼女もSEXに
身体が慣れたのか

肉棒が女性器に
出し入れする度に
子猫の様な
声を出すようになった



やがて
2人の快感は
頂点に達し

ビク...

ア...

ダッ...♡

ア...

ダンナ
さまあつ...♡

同時にいった

キキキ

クク

クク

クク

ギュー...

ギュー...

ビクビク...

女子キ...

そして
アイナの膣から
肉棒を引き抜くと
俺の精子が溢れ出た

ビク...

フ...

フ...

ゴク...

ゴポオ...

ダンナ様...
今日も
凄かった
です...♡♡

そう言つて
アイナは
満足そうに
ほほ笑んだ

フ...

そんなある日
仕事を終え
家に帰ると

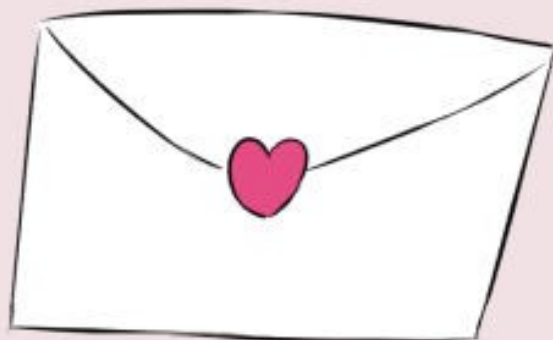
ただいまー

少し困った表情で
アイナが出迎えて
くれた

あの…ダンナ様
ちよっと相談
したい事が…

その相談したい事とは
ラブレターを
渡されたら嬉しいのだ

相手は例の同級生
台場守



この手紙の返事を
明日の放課後
校舎裏で聞かせて
欲しいとの事だった

できるだけ
傷つけないように
断りたいんです

この時俺は
悪魔の様な
名案が
頭に浮かんだ

ニタァ…

…

とりあえず
その思いついた
方法を
アイナに
教えてやる

ゴニョゴニョ...

すると

...

ムリムリムリ!
絶対無理です!

ええええ!!?

そんな恥ずかしい事
絶対できません!!

こんな感じで
涙目になって
猛烈に反対される

しかし
家長である
俺の命令は
絶対だ

嫌がる彼女を
強引に
説きふせ

その晩は
明日の計画の
打ち合わせを
念入りにした

そして
翌日の放課後



あ…海藤

あの手紙
読んでくれて…

…

約束の場所に
アイナは現れた

しかし
後からすかさず
俺が登場する

は…?
斎場…先生…?

いや…
台場クン

悪いねえ
君に言わなきゃ
いけない事が
あるんだよ…

!?

そして
台場クンの目の前で
アイナはパンツを脱ぎ
スカートを
たくしあげた

スッ…

…

ホロニ

パニくる彼を
尻めに俺達は



へ...?
お...おい!?!
海藤...
おま...何を?!



目の前で
合体した

っ...は...う

ぜん...

悪いね♡
俺達夫婦♡
なんだよね♡

!?



あまりの出来事に
彼はシヨックを受け
力なくへたりこんだ

ガク…!



ん…ん…

ゼクウ…

ゾク…

ゾク…

う…

ゾク…

ゾク…

か…海藤…!?
何でこんな
ブサイクな
おっさんと…!?

この時
アイナは
喘ぎ声を
我慢すること
に
精いっぱい

く…く…

ゼクウ…

ゼクウ…

彼の問いは
耳に入らな
かった

う…

ゾク…

ゾク…

ゾク…

台場くんが
少し可哀想に
なってきたので
オカズになる様に

キーン...

グ
イ

俺達夫婦の繋がりが
見え易い体位に変える

やつ...♡
ダメっ...♡
旦那さまっ
...!...?♡

アイナのマ○コは
同級生に見られてる
せいか非常に
締めまりがきつくなった

グ
イ

この時の台場クンは
アソコをおっ起て

ツ……

涙を流しながら

俺達の行為に
釘づけになっ
ていた

や……っ
やあ……っ
せ……っ

ダあめっ……♡
台場クンが
見てるの……♡
頭が真っ白に……♡

ハ……っ

ハ……っ

ゾク

そんな中
俺達夫婦は
とうとう——

2人そろって
絶頂した

セクッ...

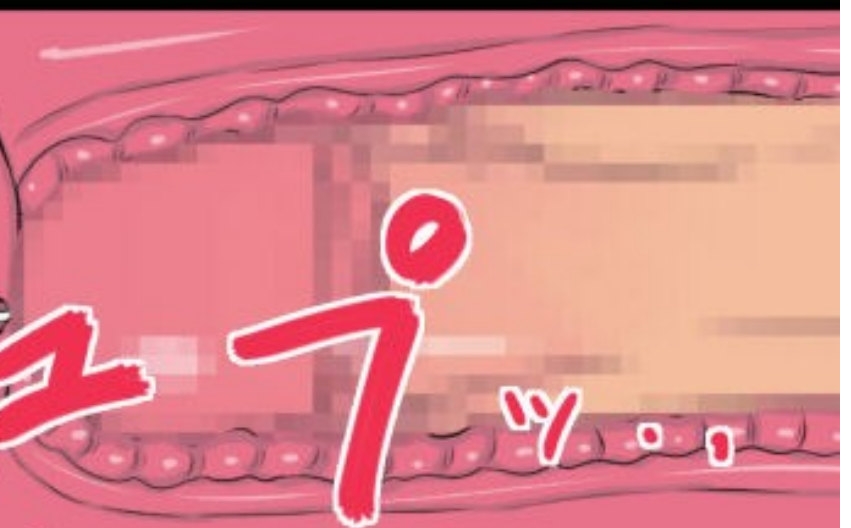
見ないでえい



セ



ユッ...



アイナは中出しが終わると
恍惚の表情で

自分の膣から溢れ出る
精子を眺めていた



その様子を見て
台場くんは

う...
うわあ...

あまりの
ショックで
その場を
逃げ出した



その後彼は
人間不信に
陥り
ひきこもりに
なったという

そしてその時の
俺達は彼が
逃げ出したのを
気付かないほど

ラブラブに
キスをしていた

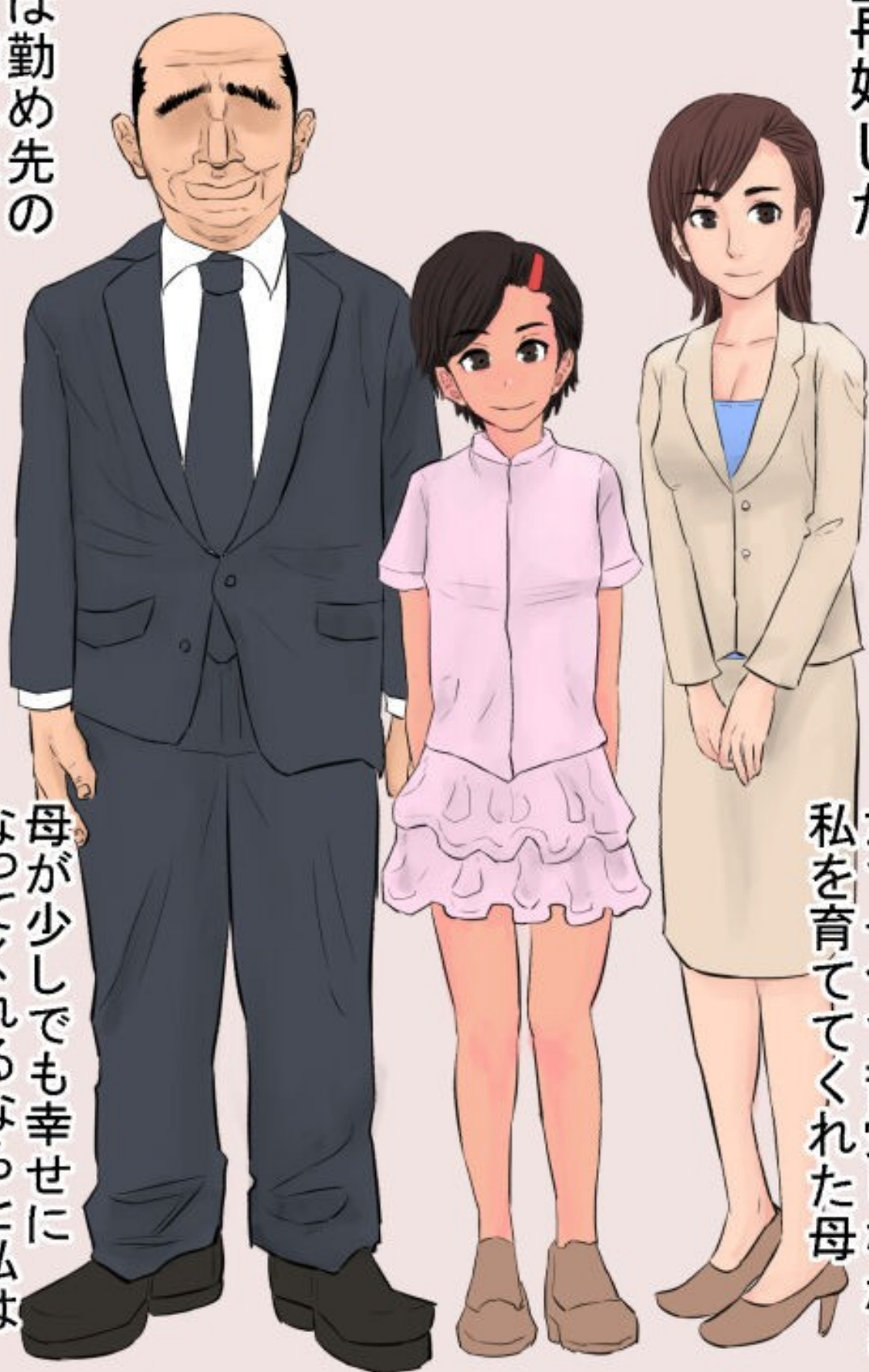
こうして
濃厚な夫婦生活は
続いていくのであった



薄幸○学生ミクちゃんが母と再婚したドスケベ親父に
開発されて親娘丼されちゃう話

この春
母が再婚した

5年前に離婚してから
女で一つで苦勞しながら
私を育ててくれた母



相手は勤め先の
二十も離れた
会社の社長だ

母が少しでも幸せに
なつてくれるならと私は
この再婚に賛成した

本音を言うと
私は最初から義父が
苦手だった

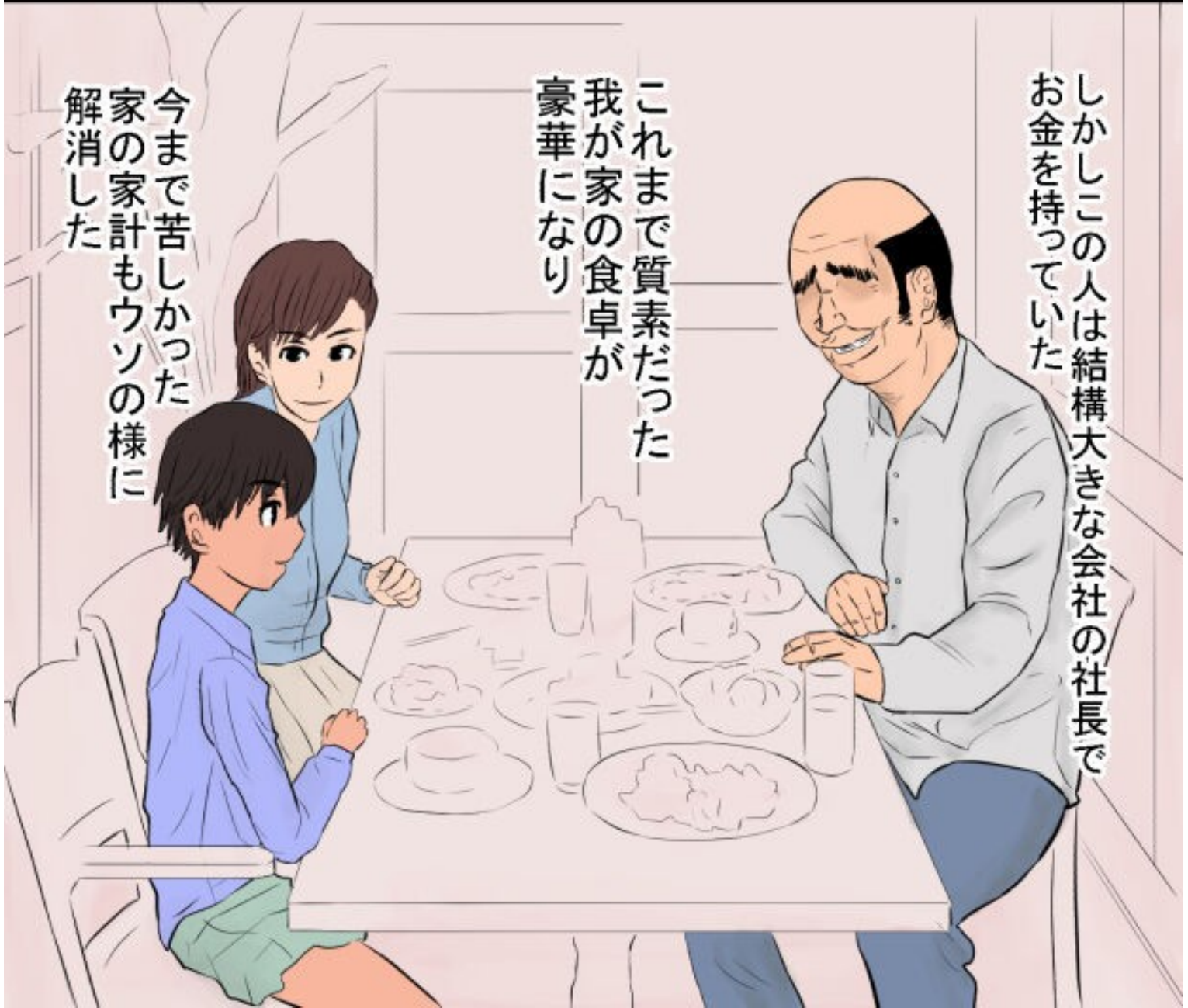


イヤらしそうにニヤついた口元
完全にハゲあがった頭
そして何よりイヤなのが
私を舐め回す様に見る
下品な眼つきだ

しかしこの人は結構大きな会社の社長で
お金を持っていた

これまで質素だった
我が家の食卓が
豪華になり

今まで苦しかった
家の家計もウソの様に
解消した



そしてつい先日
私達親子は5年程住んでいた
安アパートから

この都内の一等地にある
社長宅に移り住んだ

そして転校先の学校でも
早々に友達ができ

今までの貧乏でみすぼらしかった
私の人生が人並み以上の
順風満帆なものに思えた



しかしそんな生活にも
一つ不満があった
それは



今まで聞いた事
がない母の
Hな声で

私は変な
気分になら
なりながら
その夜を
過ごした



母と義父の
夜の営みの声
が

私の部屋まで
筒抜けになっ
てしまっ
た事だっ
た

そんなある日
学校から帰る途中に
突然豪雨が襲う

運悪く傘を持っていなかった
私はズブ濡れになりながら
走って家路を急いだ

ザ
マ
マ
マ
マ

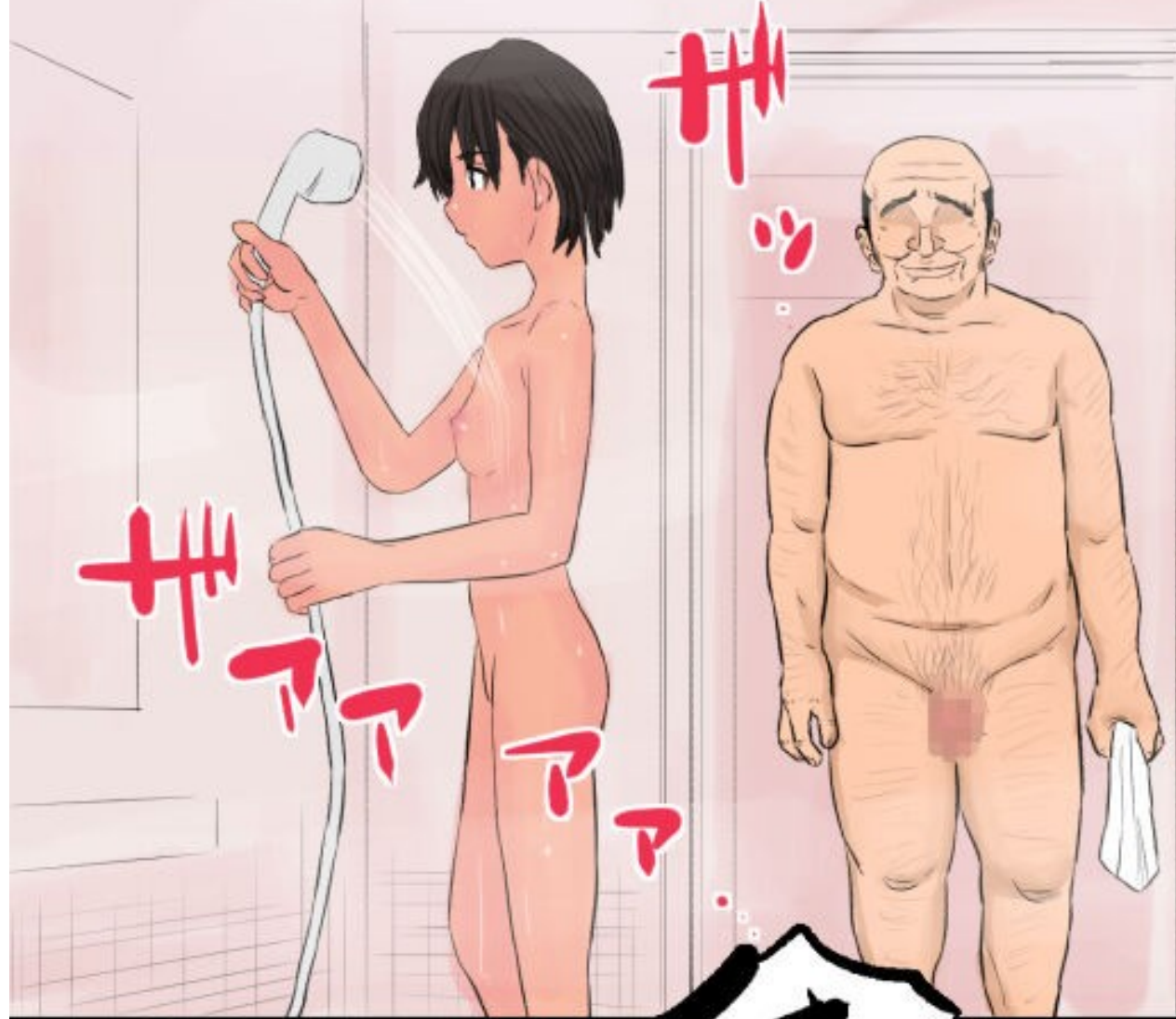
そして私は家に着くとスグ様
風呂場へ行き
熱めのシャワーを浴びた

しばらくして
玄関から
誰かが帰ってきた
音がしたが

私は母かと思いきや
思いそのまま
シャワーを
浴びていた



すると父が裸のまま
突然風呂場に入ってきた



きゃああ...

いきなりの事に
私はパニックになり

悲鳴をあげ
その場に座り込んだ



しかし義父はすかさず
私の背中に貼りつき

ミクちゃん
僕たち親子
でしょ？

身体洗ってあげるから
そんなに恥ずかし
がらなくていいよ♡

ひっ…

それともミクちゃんは
ボクと親子になるの
イヤなのかな？

それなら
お母さんと
離婚して
また貧乏生活に
戻るけど
それでいいの？

このオジさんに
触れられるのが
心底イヤだったけど

っ…

びっ…

母の事そして
これから生活
の事を考えると
私はそこから
動けなかった

それじゃまず
オツパイから
洗おうかな♡

ゼクニッ

ひゃ

そう言うとき義父は
手にボディソープをつけ
私の胸を鷲掴みにした

そして手慣れた
手つきで
私の乳首を
弄ぶ

クニッ

ミクちゃん
ちよつと感じて
るでしょ？♡

っ…

ゾクゾク

ゼン

好きでもない相手に
こんな事をされて
本当にイヤなのに
身体が反応してしまう
事が私は悲しかった

ゼン

っ…

お♡
乳首
起つてきた

クニッ

それじゃ今度は
おしりを洗おつか♡

おっほ♡
キレイな〇学生
マ〇コだね♡
それにチヨロつと
毛が生えてる♡

ググ...

ドキドキ

死ぬ程恥ずかしかったが
義父の言いつけには逆らえず
浴槽に手をつけ
お尻を義父の方へ向けた

ギョウ...

バクバク!

誰にも触らせた事
がない大事な所を
強引にイジられ
私の頭に電気の
様なシヨックが走った

セクン...

ムチイッ♡

そう言って
義父は
私のアソコを
拡げる

ボク上手いから
スグ気持ち良くなるからね♡

義父はそう言っ
て手慣れた手つきで
私のアソコを弄ぶ

ゼン...

ビッ...

クワッ...

クワッ...



自慰をしたこと
もなかった
私にとってその刺激は
あまりに強すぎたが

義父に逆らえない私は
声を押し殺して
ただ耐えるしか
なかった

ゼン...

ゼン...

ニユ...

ニユ...

お♡学生
マ〇コから本気汁
出てきたぞ♡

セク...



義父の手は休むことなく
アソコを責め続け

チュ...

ポッ...

チュ...

ポッ...

やがて私は
自分の身体が
浮かび上がる
感覚を覚える

ハハハハ...

やっ...♡
頭が白く...?

セクシィ

あぁあぁあぁ

フビ

私は生まれて初めて
絶頂した

ビクニ

おやおやおや
これからが
本番ですよ♡

ギ

ギ

ギンギンに
男性器を勃起させ
義父はそう言った

ふ

初めての感覚で
腰が抜けてしまい

グニ

私はその場に
へたり込んでしまった

それじゃ
本日の
メインイベント
いきましようね♡

やっ…
やめてっ…
それだけは…

イヤっ…
イヤっ…
イヤっ…

義父は私の
必死の哀願を
無視し—

あーっ…

一気に男性器を
私の膣内へ突き入れた

ズン
ズン
ズン

ゼンゼン
なっ…
何コレえっ…

SEXが初めて
だった私に対しては
容赦なく腰を振ってくる
義父

おほ〜♡
こりやあ♡
キツイ♡

いた...

こんななのっ...
こんな酷いのが
私のつつ...初めて...?

痛あ...

パニ

パニ

パニ

義父のソレは
非常に大きく
出し入れする度に

ゴ
ゴ
ッ

ゴ
ゴ
ッ

私の膣内は
エグられる様な
感覚を覚えた

○学生マ○
最高〜♡

パ
ニ
♡

パ
ニ
♡

そう言うと
義父は更に
ピストンを
速めた

ピストン速度は
更に加速し
そして――

イクよ
ミクちゃん
膣内にだすよ！

んんんんん

んんんんん

パン

パン

パン



やがて義父の男性器は
大きく脈打ち



膣内？
え？

私はその意味
も分からず
ただ耐える
しかなかった

義父の精子が大量に
私の膈内に注がれた

セクニ

ゴッゴッ

ああああ





男性器を引きぬくと
私のアソコから
ゴポリと精子が
溢れ出た

あ..あ..

アポ..

いや〜♡
出た出た♡

ゴポ..
ポ..
ポ..

じゅっ..
っ..
っ..



じゃあお父さん
先に出るね
長湯して
風邪引くんじや
ないぞ♡

そう言つて
義父は
放心状態の
私を置いて
サツサと
風呂場を出たのであった

...

びん..

びん..

びん..



それが私の
初体験であり
悪夢の日々の
始まりであつた

それから3カ月——
母が自宅にいない時間を
見計らい
度々義父の性欲の
処理をやらされた

んく

ニョポッ...

んく

ニョポッ...

性に対して何も知らなかった
年相応の◎学生だった私は

この3カ月で色々と
Hな事を仕込まれたのだった

ニョポッ...

ニョポッ...

ニョポッ...



教わった通り
しやぶつていると
はちきれんばかりに
男性器はそそり立った

ふっ♡気持ち良かった♡
じゃ♡いつもものお願いね♡

くっくっくっ

極太な肉棒を
受け入れるために
腰を落とした

そして私は義父の命令通り
自らパンツを脱ぎ

ズルッ

ニユッ♡

そして私は義父を悦ばせるために
一生懸命に腰を振る

もうこの頃には
挿入をしても痛みは
感じなくなっていた



何故か私は
その事が無性に
哀しくて

涙が溢れて
止まらなかった

私の膣内をかき回されるのが
とても気持ち良くなっていたのだった

むしろ義父の
極太な肉棒で

ポチュ...

よーし
頑張ってるミクちゃんに
御褒美あげちゃうぞ♡

きゃっ！

そう言うと義父は
私を抱え上げ

ズ
バ

んぐい

この刺激に
私は耐えられず

ピストン速度を
倍以上に上げた

ズボ

ズボ

ヤバイっ！
ヤバイっ！
ヤバイっ！
♡
♡
♡

ハ



私は絶頂した

セクシィ

ガッ

ハッ

ク

ク

ク

ク

お疲れさまー♡
ここに大金置いてくね

行為が終わると
決まって義父は

びっ...

びっ...

三万円をくれた



パサ...

貧乏な時はあれ程
欲しかったハズなのに

私はそのお金を見ると
罪悪感と悔しさで
涙が止まらなかった



そんなある日

もはや日課となった
義父とのSEXの
ために

私はシャワーを浴び
義父の部屋に入った

すると――

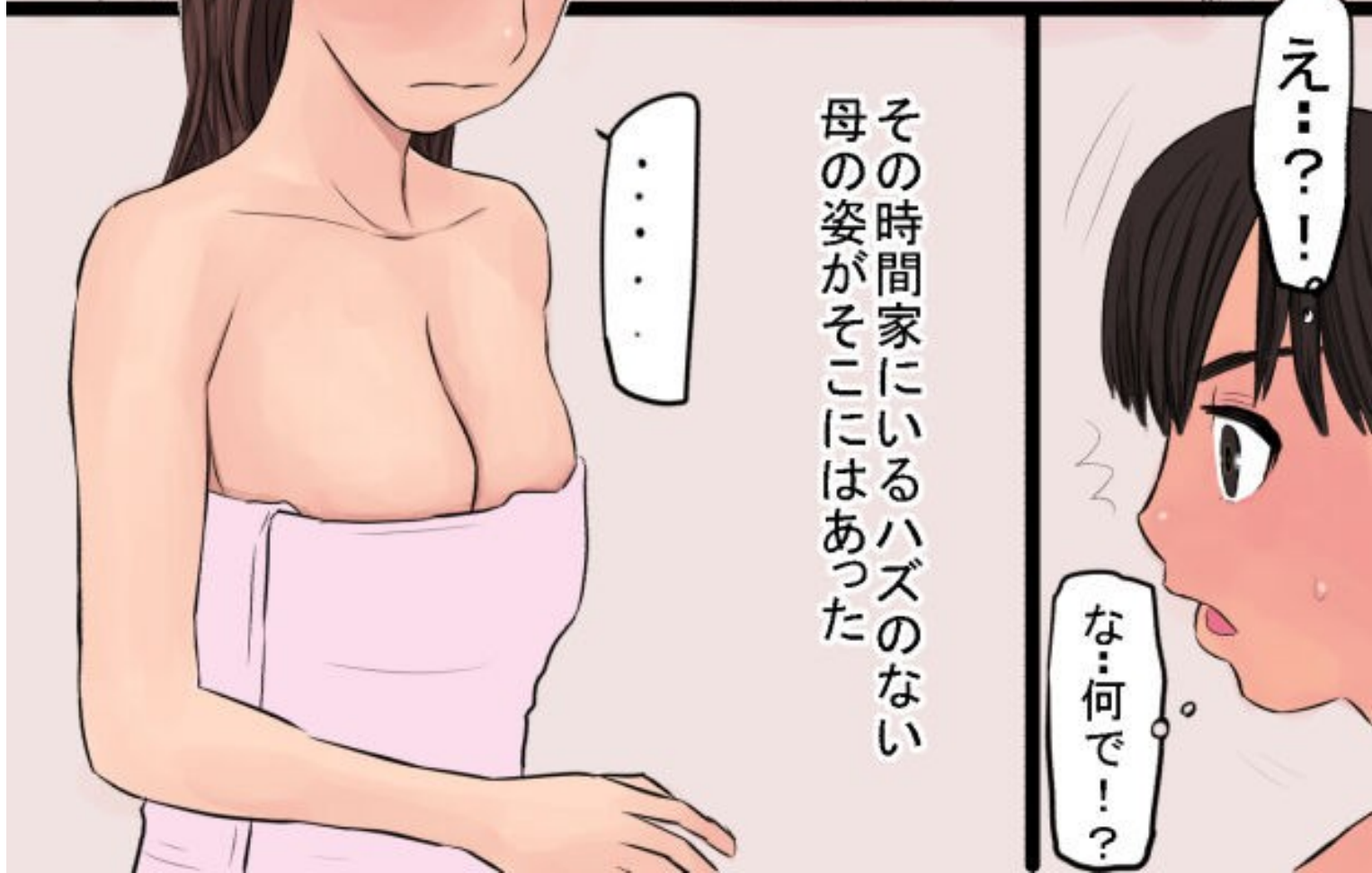
……

え……?!

な…何で!?

その時間家にいるはずのない
母の姿がそこにはあった

……



私が現状を飲み込めず
パニックになっていると

ハツハツハ
たまには
親子3人で
スキンシップ
とろうよ♡

母さん
ミクちゃんの事
頼むよ♡

後ろから突然
義父が現れそう言った

ミク…
本当にごめん

母は義父の命令通り
私の股間に顔を
近づけ

お母さんっ…?

そしてアソコに
舌を這わせ
愛撫した

母は最初から
私がこうなる事を
承知で義父と
再婚したのだ

私はこの
言葉で
全て悟った

母の舌使いは
とても激しく

私は頭で
これはイケない事
だと思っ
ていても

何でっ…
お母さあ
ん

身体の方は
正直に反応
してしま
うのだ
った

おやあ？お母さん
娘のマ○コ舐めてるの
にズブ濡れ
ですよ♡

は
う
ん

その極太の肉棒を
思い切り挿入した

そして義父は
母の後方に
回り込み

ジュー

グッ

ニムル

せの

ニムル

ニムル

グッ

せの

せの

せの

容赦ないピストンで
母の膣内をエグる義父

サチュン

サチュン

うぐっあ

せん

せん

そのうち母は
大きく痙攣して

パニ

パニ

イグう

せん

パニ

絶頂した

パニ

せん

母がSEXで
絶頂した姿を
目の当たりに
した私は

ぜん
ぜん

びく

自分のアソコが
火照って
ムズ痒くなる感覚を
抑えられずにいた

っ……
このもどかしい
感じ……

もじ

もじ

ん？
ミクちゃん
どうしたのかな？

ダメ……こんなHな
気持ちっ……

わ……
私……

私のっ……

でももう
我慢
できないっ……♡

私は自分でびしょ濡れになっ
ているアソコを拡げて

私のっ…
オマ〇コ
にっ…

お父さんの
おチ〇ポ
下さいっ…

と義父に哀願した



この時の私には
全ての事が
どうでもよくなっ
て

クツクツク
本当に親孝行な
娘で嬉しいよ♡

じゃ2人まとめて
面倒みてあげる♡

そう言っ
て義父は極太の
バイブを
取りだした



ただ気持ち
よくなりた
いそれしか
考えられ
なかつた

義父は
母にはバイブ
私には肉棒を
同時に挿入し



両方激しいペースで
ピストンさせた





実際義父の
テクニクは凄まじく

んがっ



私達母娘は
絶頂しまくるのだった

2人の弱い所を
的確に責め続け





やっほ♡
また頭が
真っ白く♡

そう言った
義父のピストン
速度は最速になり

それじゃ
ラストスパート
いきますよ♡

バ...

パン



おあ...
おあ...

せん...

いぐいぐ
うぐうぐ

せん...

私達親子
3人同時に
絶頂した

せん...

び...

せん...

こうして
母を交えた
SEXは終わった

ハハハ

ハハハ

ゼン

ツツ...

ツツ...

トロオ...

ゼン

この時の
私は
まだ知らなかった

ハア...
何でこんな
事になっちゃった
んだろ...

この後
数年間
ズルズルと
義父との
関係が続く
事を...

THE END

憧れだったあの娘がヤクザの穴奴隷にされていた件前編

俺の名前は
木下ユウスケ 25歳
現役バリバリのニートさ

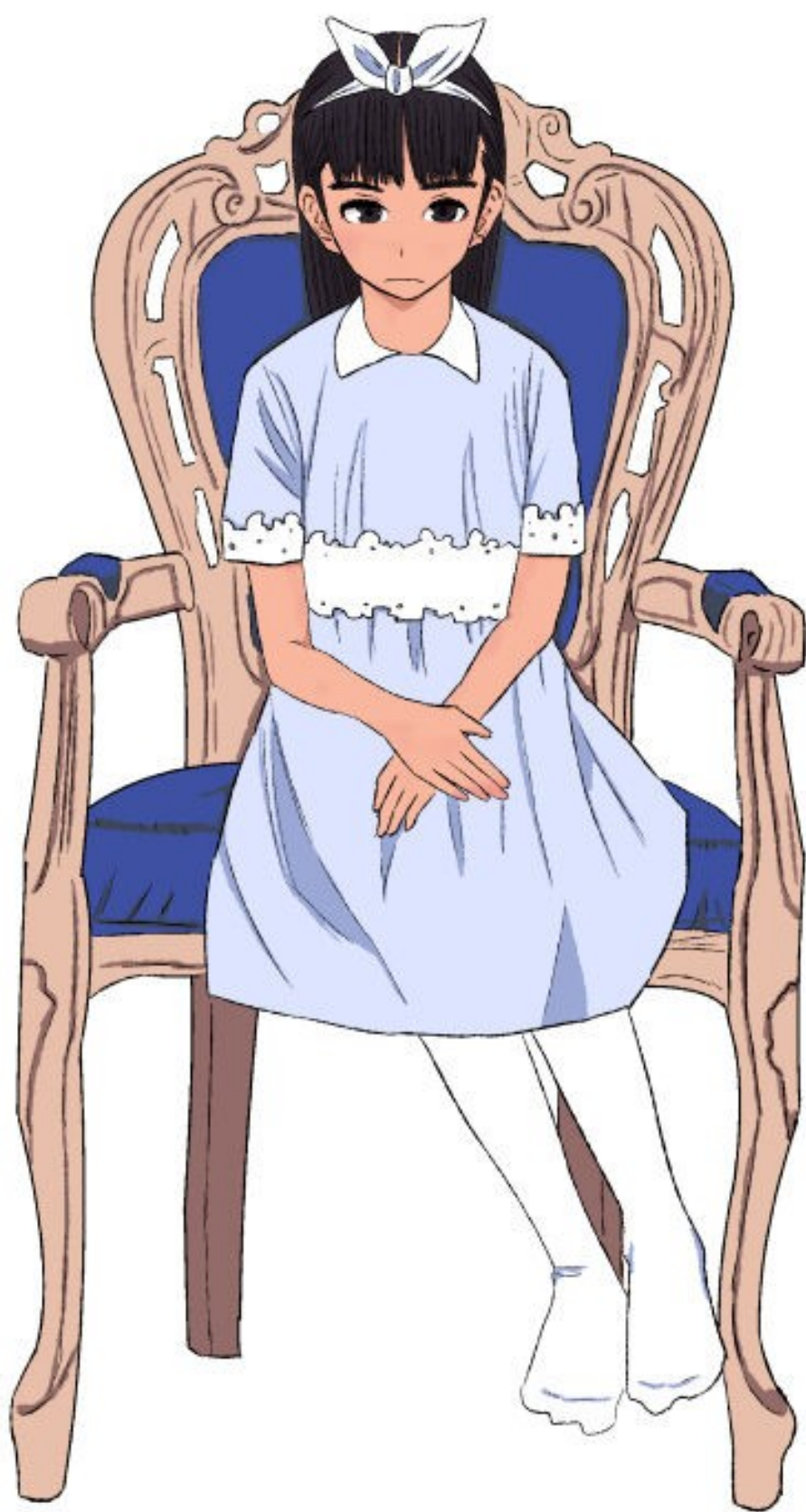


日課であるネット
でロリエロ動画を
漁っている

俺はとんでもない
モノを見つけてしまった



10数年前に失踪した同級生——

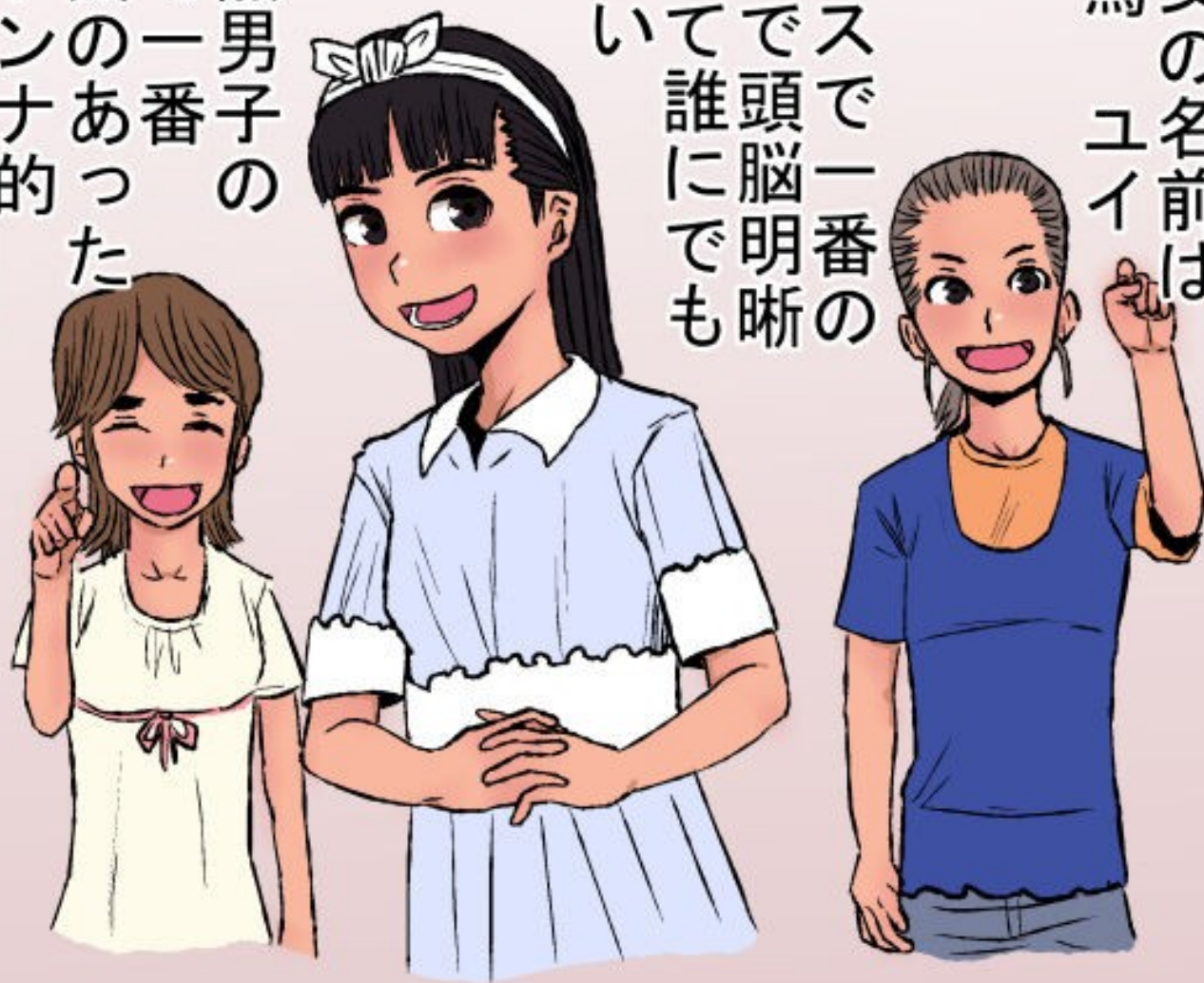


当時俺が憧れていたあのコが
昔のままの姿でエロ動画に出演していたんだ

彼女の名前は
白鳥 ユイ

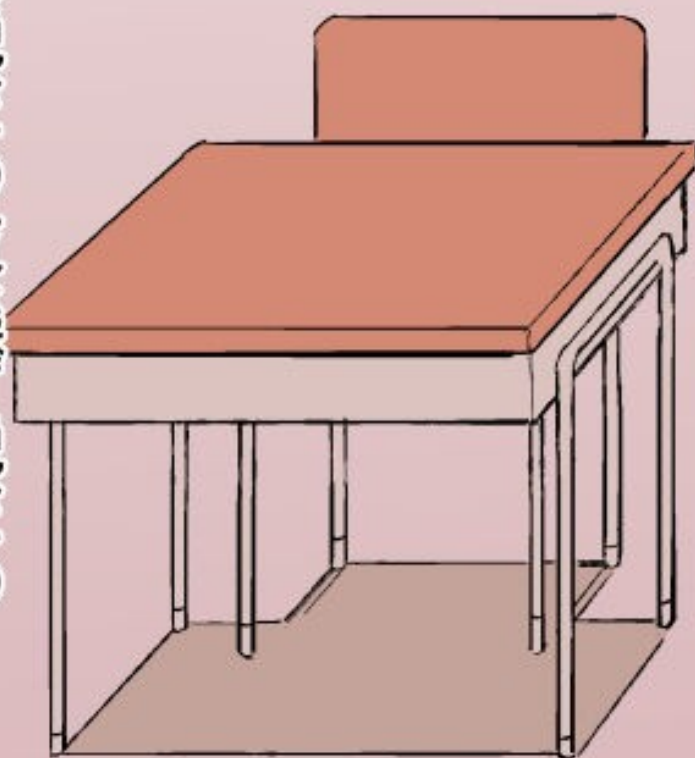
クラスで一番の
美人で頭脳明晰
そして誰にでも
優しい

当然男子の
中で一番
人気のあった
マドンナの
存在だった娘だ

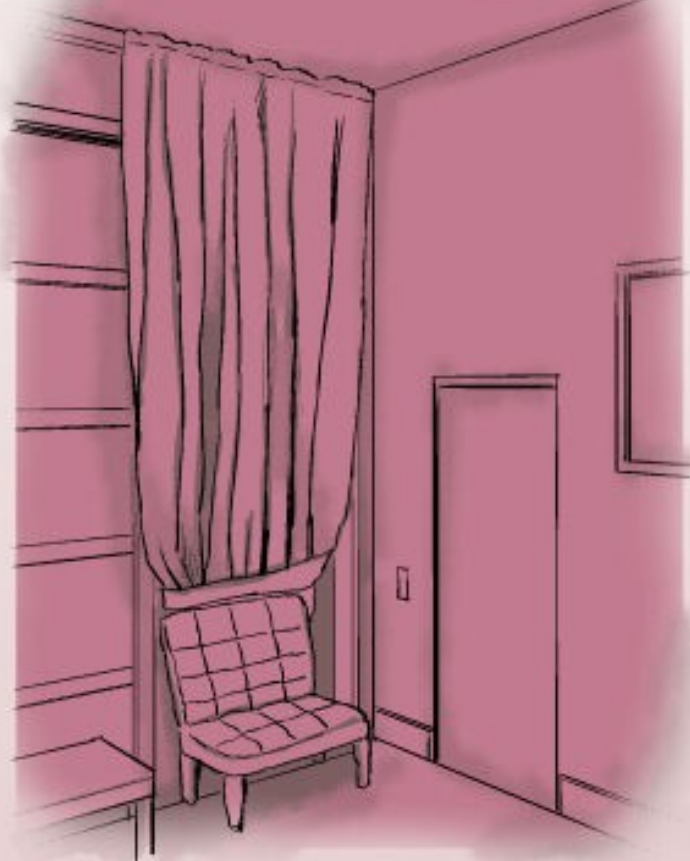


しかし
ある学年の夏休み明け
彼女の姿はパツタリと
消えた

誘拐説だの夜逃げ説だの
様々な噂が上だったが
真相も分からなまま
時間は過ぎ次第に誰も彼女の
事を口にしなくなっていた



しかし経緯は不明だが
実際に彼女は当時の姿で
この動画に写っていた



俺は安堵と絶望感が
入り混じった
複雑な気持ちで
この動画見続けた

やがて彼女は
ぎこちない表情で
自己紹介を
させられた



どうやら実家の事業が
失敗し借金返済のため
このビデオに出演
させられた様であった

自己紹介が終わると
チンピラ風の男が
出てきてズボンを
脱ぎ始める



「へっっへっっ…
じゃあユイちゃん
さつき教えた通りに
やるんだよ」

そして
彼女の前に
凶悪なソレが
姿を現した

ピクッ…



「さつき教えた通りに
やるんだよ」
まだ1X歳だった
彼女の顔は更に強ばった

グッ

「んっ…んぶうッ…」
男は乱暴に彼女の
小さな口にソレを
ねじ込んだ



「オラあ…もつと舌を使えや」
○学生の少女の口に容赦なく
腰を振る

ズボ

「んっ…んっ…んっ…」



ドク

ズボッ



「ふうっ…
なかなか具合が
良いロマ○コ
だったぞ♥」



「ふうえっ…」
彼女は男の
汚らしい精液を
吐き出した

「おい次は
自分でスカートを
めくってみろ」



「……」

彼女は心底
恥ずかしそうに
自分でスカートを
たくし上げた



「おっほう♥
なかなか美味そうな
太ももじゃねーかよ♥」



男はそのゴツい手で
彼女の太ももを
遠慮なく掴む

ゼクッ

「~~~~~ジジジ~」

「おいおいこれぐらいで
ビビるなよ もっと
気持ち良くしてやるから...よ」



「ちっ……ちっ……
やっぱり止めて
下さいー！」

「他の事は何でもしますー！
やっぱりこれだけは……！」

「あ……？」

グ
グ……

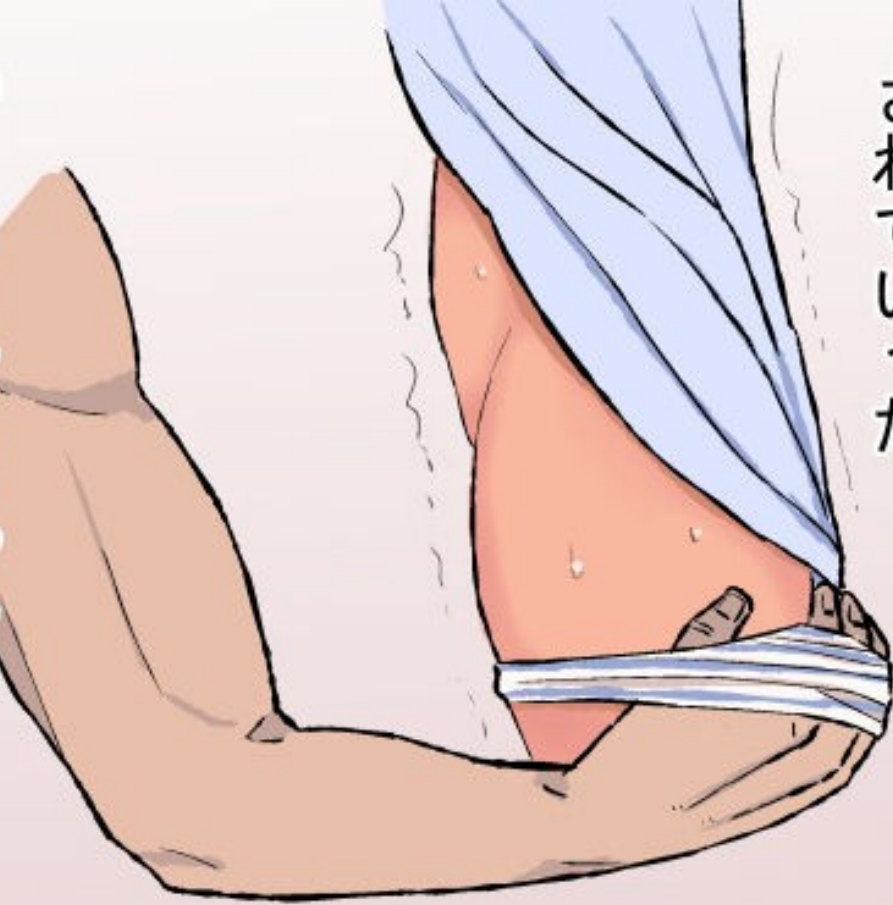
「フツ……まあ
いいけど……」

「その代わり
妹のマイちゃんに
出てもらうわ♥」

「ツ……！」

「……続けて下さい……」

必死の抵抗を
していた彼女も
観念したのか
次第に男のなすがままに
されていった



「さーてユイちゃんの
処女マ○」と「ど」対めんW」

「ウホW
ユイちゃん
○学生のくせに
毛生えてる
じゃーんW」



「~~~~ッ」
彼女は恥ずかしさのあまり
泣き出してしまっ
た



「ふむふむ…」
男は下卑た眼で
彼女の女性器を
マジマジと
見ている

「ふっ…」
ふうふうっ…」
(もうやだよおっ…
こんな人にアソコを
見られるなんて…)



「うむ…処女膜も
しっかりあるな」

「ひやっ…」

「では味見と…♡」
男は女性器に
吸い付いた

「イヤっ…!?!?!」
やめてよおおおおっ…!?!?!」



卑猥な音をたて
男は彼女の
女性器を丹念に
舐めまわす

「んんん？
気持ち良いだろお？」



「ひっ…ひいひいひいひいひいひい…」

(気持ち悪いのにっ…
この感覚はっ…!!?)



次に男は陰核を
舌で転がす様に
責めた

(やっ……!?!?)
何?この感覚は
っ……??)

ん
う
う
う
う

びびびび

ズルル

ゴ
ボ
ッ

ズ
ブ
ッ



「お？ヒクついてきた」

「そろそろイクか？」

ヒク...

ヒク...

ヒク...

「くっくっくッ！」
(ダメっ：波が来るっ！)

せ...

ん
あ
あ

「おほっ...
ハデにイッたな
このガキエロの
才能あるわ♥

プニ...



(今の感覚は……？
頭がボ～っとして
何も考えられない……)

彼女は絶頂の余韻で
グツタリと仰向けに
なっている



「オラ
休んでる暇ねーぞ
次はもっとな
気持ち良く
してやるよw」

男は彼女の服を
脱がせた



「じゃあそろそろ本番いってみよーか♥」

ビクビク...

「え...っ?!...
そ、それは...?!」

男は固く怒張した
男性器を彼女のアソコに
押し当て又ル又ルと動かした



「嫌っ...ダメです!それだけは勘弁してください!他の事なら何でもします!ソレだけは...!」

ビクビク...

「うるせー...よー!」

男は彼女の声を
遮り腰に力を
入れ...

ググ



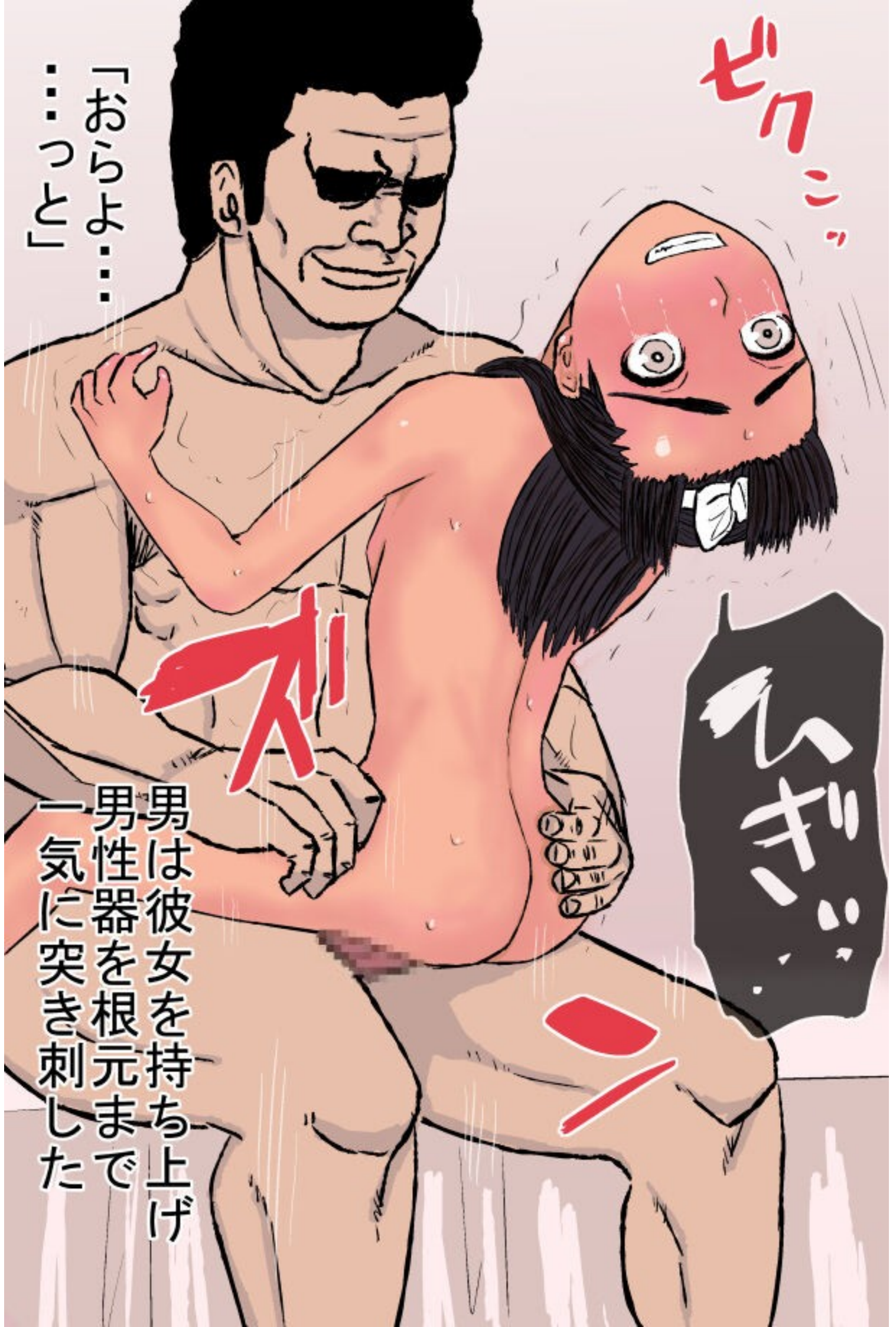
ゼン...

「おらよ...」
「とっや」

刺

男は彼女を持ち上げ
男性器を根元まで
一気に突き刺した

ムキムキ



「ひぎっ……
イヤっ……痛いっ
お願いっつ
動かさないでっ……」

彼女は痛みで
顔面をグシヤグシヤに
している

「もうちっと
我慢しろや
すぐ良くなるからよw」

男は彼女の哀願に
構わず腰を突き上げる



「ひっ……!?!」

男は彼女を
寝そべらせ
体位を変え

ズッ

ズッ

破瓜の血も構わず
乱暴に腰を振った

ズッ

「イヤあああっ!!
痛いよおっ!!」

彼女がどんなに
泣き喚こうが
腰の動きは
緩まる事は
無かった

ズボッ
ズボッ



「ふっ……
ぐっぐっぐっ……」

男のピストンは
激しさを増し
卑猥な音は一層
激しく響いた

チュポ

ブル

ブポポ

「流石の学生マ○ン
超締まるw
そろそろ限界
だわww」

パニ

パニ

パニ

「よっしイクでっ
子宮で受け止めるよ」





男は遠慮なく
精子を彼女の子宮に
注ぎ込んだ

「いや、
悪い悪いw
気持ち良すぎて
中に出しちやっ
たw」

「あ……
あ……」

ゼッ……
ゼッ……

(赤ちゃん
できたらどろろし
よつ……)



女になった彼女の
アソコからは




ドロっと男の
汚らしい精子が
溢れ出た

そしてそれを
見た俺は

泣きながら
オナニーをした





次のシーンでは
彼女は首輪に体操着という
出で立ちで登場し

いかがわしい中年に囲まれ
泣きそうな顔で俯いていた

そして彼女は
その中年達の
チ○ポを

ズッ

ぎこちない
手つきで
両方シゴき始めた

ブボ

尿道付近を
丹念に
舐め回した

その小さな口で
亀頭を含み
カリを舌で
刺激し

ズブ

チュッ



そして両方の
チ○ポが固く
なった所で



彼女は下を
脱ぎ始めた

「わ……私の
○学生マ○コに
おじさまの
おチ○ポを
入れて下さい……」

彼女は強ばった表情のまま
そう言っで自分の
おマ○コを曝け出した



「くふっ……♡」

ズブズブ

男達は待ちきれんばかりにそのそそり立ったチ○ポを突き入れた

「ふんっ……♡」

ズボ

ズボ

ズボ

ズボ

男の凶悪な極太チ○ポが彼女の女性器を突くたびに愛液と切ない喘ぎ声が溢れ出る

ガクガク



ズワズワ...

フー

「もつと...
優しくっ...
こんなに激しく
されたらっ...♡」

フー

「んんん？
ユイちゃんその
割には下の口が
トロトロだよお？w」

そう言うって
男はその凶悪なチ○ポで
激しくピストンする

パン

パン

パン

フー

(ダメっ...♡
私このままじゃ
馬鹿になっちゃうっ...♡)

ズユ

ズユ



「あ〜ユイちゃんの
マ〇コ最高♥
イクよ♥」

「ぐっぐっぐっぐっぐっ
男のピストンの
激しさが最高潮に
達した」



その男また濃い精子を
彼女の中に注ぎ込んだ



マポっ

「ふうっふうっ……」

ビクッ

ビクッ…

彼女は絶頂と
同時に床に
へたり込んだ



(辛かったけど
これで約束の
ビデオ出演は
終わった……)

(あとは家族4人で
知らない街に
住めば……)

「……
お姉ちゃん？」

「え……？」



その声の主は
俺も知っている
人物だった



そう彼女の妹
白鳥 マイであった

「おっお姉ちゃん……」



「さあこれから
お姉ちゃんと一緒に
楽しいお遊戯が始まるよw」

「え……？おっお姉ちゃん……？
何が始まるの……？」



「……マ……マイ……」

そうして彼女と
彼女の妹の地獄が
幕を開けるのであった



憧れだったあの娘がヤクザの穴奴隷にされていた件後編

妹と再会した後
私は彼女の目の前で犯された

いやあつ

オラ...

ア...

ア...

オラ...

いやあじゃねーだろw
こんなママOJ
濡らしてあげます

ア...

オラw
妹の前で
イってみろやw

ぶぶぶ...♡
ぶぶぶぶぶ...♡

このメスガキがw
チ○ポでイっちまえ♡

いーやあ
ああ
見ないで
えええ



お…お姉
ちゃ…ん？

それから半年後—



ヤクザ達の
慰み者にされていた

私達姉妹は毎日

妹のマイも
最初は痛くて泣いてばかり
だったけど半年後には
身体がセックスに慣れて
しまったのかそれとも
心が壊れたのか

ゴクッ
ゼツッ

あーん
あーん
あーん

ズッ
ボッ
ボッ

ゴッ
ボッ
ボッ

ニッ
ハッ
ユッ

彼女は悦んで
ヤクザ達の相手を
する様になってしまっていた

ゴクッ
ゴクッ
ゴクッ

おちのちのオシ
シ

ハッ
ハッ
ハッ

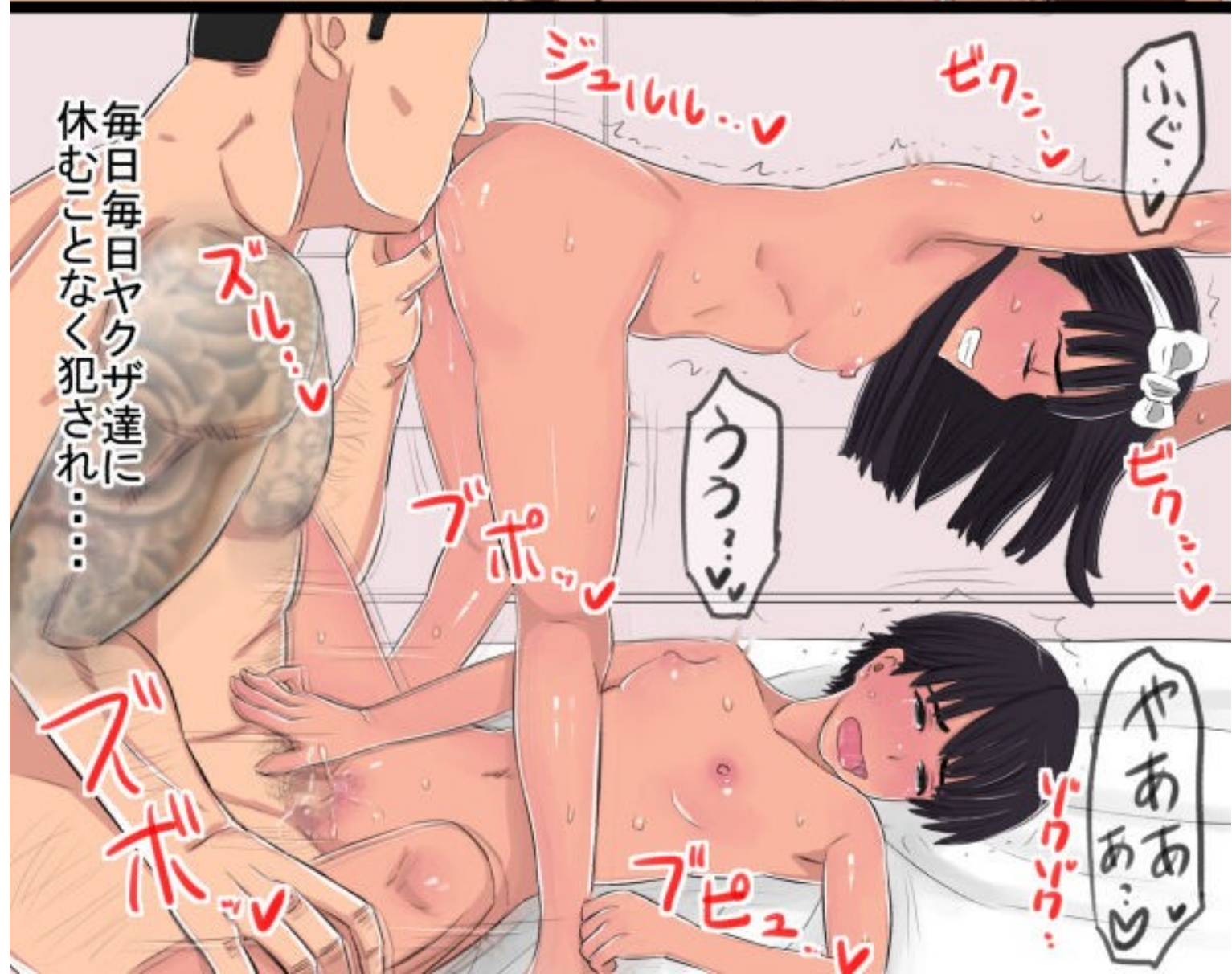
ハッ
ハッ
ハッ

ハッ
ハッ
ハッ

それから
私達姉妹は...



毎日毎日ヤクザ達に
休むことなく犯され...



ムムムム



あああ



あああ

あああ

そんな地獄のような
生活が数年続いた

私が20になる頃に
マイと離れ離れになり
山奥の旅館に引き取られた

そこでも私は男性客との
売春を強要された

その生活も10年続いた頃
20年近くも男とのセックスを
強要され身体はボロボロだったが
ようやく私は自由になった

その後ツテを頼り
廃人同様になっていた妹を
探して再会し
今は姉妹2人片田舎で
静かに暮らしている

完